

トウサワトラノオ見ごろ

下野 地元住民ら初の観察会



トウサワトラノオを囲み観察会を行う参加者たち

り組むメンバーは28日、かれんに咲く花を囲み観察会を開催。貴重な花の継承に誓いを新たにしていた。

トウサワトラノオはサクラソウ科の多年草。約30センチの茎に付いた1センチほどの白い小花が無数に咲く。全国でも2カ所でしか生息が確認されていないとされ、環境省から絶滅危惧種に指定されている。

この日は保存活動に参加している小山北桜高生や地元自治会のメンバーら30人が集まり、約1300平方メートルの同所保全地で観察会を初めて実施。食事をしながらこれまでの活動を振り返り、咲き誇る花を楽しんでいた。

また、これに先立ち市トウサワトラノオ保存会の総会も開き、本年度の活動計画などを議論した。

保存会の黒川英代(くろがわひでよ)会長(77)は「ことしも立派に咲いてよかった。草刈りなどの苦労話をしながら食事を楽しむことができた」と笑顔をみせていた。

(文・写真 柰木沢良太(なきざわりょうた))

【下野】絶滅の危険性が高く、地元住民らが保存活動を続けているトウサワト

ラノオが、東根の保全地で見ごろを迎えた。保存に取